

第6回

訪問看護の日



笑顔

届けよう



～ あなたの街の訪問看護です ～

昨年 7 月、台風による悪天候にて中止されていた訪問看護の日のイベントを、是非とも開催したい！というみんなの思いが通じたのか、4 月 20 日に透き通るような青空の下、佛教大学二条キャンパスにて「第 6 回訪問看護の日 笑顔届けよう～あなたの街の訪問看護です～」が無事開催されました。訪問看護師だけでなく、市民の方、多職種の方々により総勢 100 名の方にご参加いただきました。



日 時：平成 31 年 4 月 20 日（土）
14 時～16 時

場 所：佛教大学二条キャンパス

発表者：佐竹 保雄 氏 甲谷 匡賛 氏 大西 里江 氏 酒井 敏子 氏（発表順）

司会進行：在宅ケア移行支援研究所宇都宮宏子オフィス主宰 宇都宮 宏子 氏

内 容：訪問看護利用者様の実際の声在宅療養中の小児・高齢者・認知症でご利用されているご本人やご家族様のお話、在宅での看取りを経験されたご家族のお話を在宅ケア移行支援の研究・サポートについて全国でご活躍されている宇都宮宏子氏の司会で進行しました。



まず、アステラス製薬の和田様より排尿障害についての説明をしていただきました。その後、4 名の方に実際訪問看護をお受けいただいた生の声を発表していただきました。



佐竹 保雄氏 は、左麻痺がありながらも、一人で外出したい。今の状態を維持したい。とのご希望にて、訪問看護にて理学療法士等が週 2 回訪問され、リハビリを熱心に受けておられる方です。

奥様と共に、介護保険とはなにか、受身でサービスを受けるのではなく、学びながら積極的に多職種の

方々とコミュニケーションを図り、セルフプランニングされていたとのこと。またご夫婦で長年熱心に介護者の会など地区活動に貢献されておられ、「自分らしく生ききたい!」と、自分達のみならず、みんなが日々楽しくすごせるよう、趣味などを通して前向きに生活されているご様子がよくわかりました。

甲谷 匡賛氏 は、ALS という診断により入院生活を余儀なくされ転院を繰り返しておられましたが、ご本人の「病院を出て生活したい!」という思いを叶えるために、昔からの友人がボランティアで協力し在宅復帰された方です。

病状の進行や医療的行為を通しての葛藤などをご本人に代わり友人がお話して下さいました。現在は往診、訪問看護、24 時間体制のヘルパー、ボランティアの方々の支援を受けながら独居生活を続けておられます。難病患者が在宅生活するために必要な事。それは、その人自身をどれだけ知ることができるのか、また、本人の意思を尊重できる環境を整えることが大切だとお話くださいました。



大西 里江氏 は、4 歳で小児難病に罹り 24 歳で短い命を閉じられたお嬢様を見送られたお母様です。

小児に対する支援が無かった頃からお母様が独りで医療行為をされ不安だった事や、訪問看護師が関り出し相談が出来る安心感が出来た事、いたずら好きの娘さんが自由にパルスオキシメーターの値をコントロールし、訪問看護師を驚かせたり笑わせたりした事、生活の中に小さな楽しみが出来た事で、どんな苦

しいことも乗り越えて笑いに変わることが出来た事などお話しして下さいました。



酒井 敏子氏 は、一年生から担任をしていた生徒の卒業式に出席した後に亡くなられた高校教師のご家族です。

癌の告知を受けながら闘病し、支えてくれた教え子の卒業式には絶対参列したいというご本人の想いを、ご家族や訪問看護師が共に支え実現されました。ご本人の独特なこだわりを受け止め、絶妙なタイミングで声を掛けてもらえ、訪問看護には知識・技術だけでなく人間力を感じました。また家に来てもらい一緒に時間を過ごしてもらうことで、家族丸ごと支えてもらい、家族の胸に優しい面影を残してもらえたとお話して下さいました。



次に、4人方々のお話を受けてコーディネーターである宇都宮先生が、笑いや涙を交えながら会場全体を一つにして下さり、感動的な雰囲気にも包まれたひと時となりました。



訪問看護師に向けて忘れてはいけない事は、「本人はどうしたいのか」

「どう思っているのか」ということを常に考え、その想いを忘れず伴走していくこと。そうしていく中で、私達も生き方を教えてもらっている。時間ではなくどう生きるかが大切なことだ。と教えていただきました。また、迷うこともあるかもしれないけど、私達が目指していることは絶対間違っていないとエールを送ってくださり、パワーをもらいました。

また、会場には約 20 年前に宇都宮先生が訪問看護を行っていた頃に御世話になったというご家族がお見えになっており、あらためて、人との繋がりや生き様を教えていただきました。

今回のイベントにて、訪問看護師に求められていること、大切にしていかなければいけないことを再確認できましたし、この気持ちを忘れず、これからも地域の方々に訪問看護師として笑顔をお届けできるよう、みんなで頑張っていきましょう！